

第三種郵便物認可

「モデルロケット」に大歓声

松本の中学生手作りして発射

松本市埋橋の松本秀峰中等教育学校は9日、ロケット工学特別講座を同市新村の松本大で開いた。NPO法人日本モデルロケット協会（埼玉県）の山田誠会長を講師に招き、受講を希望した1〜3年の15人が教材の「モデルロケット」を作って飛ばした。

秀峰中 研究機関と連携し講座



生徒たちは、山田さんから火薬を燃料に使うロケットの原理や構造などの説明を受けた。その後、部品を組み立てて中にパラシュートを収納し、長さ約30センチのロケットを作った。

同グラウンドで1人ずつロケットを打ち上げた。5

自分で作ったモデルロケットを発射させた生徒と山田さん
(中央)

はほど離れた場所でスイッチで点火。「シュツ」と音を立てたロケットは時速180キロで約70メートルの高さまで上昇した。「おー」と歓声が上がった。

パラシュートが開いて落下した地点と発射台との近さを競う趣向で、生徒は事前に風向きを考えて方向と角度を調節。パラシュートは風に流されて真つすぐには落ちてこず、生徒たちも興奮気味だった。2年の山下誠太君(14)は「駒ヶ根市は「前から興味があった分野。今日の勉強が将来につながるのいいと夢が膨らんだ」と話していた。

特別講座は、研究機関と連携して科学教育に取り組みむ文部科学省のSPP（サイエンス・パートナーシップ・プログラム）事業の一環。10日まで2日間の日程で、10日はロケットに小型カメラを載せ、上空100メートルの映像を撮影する予定。